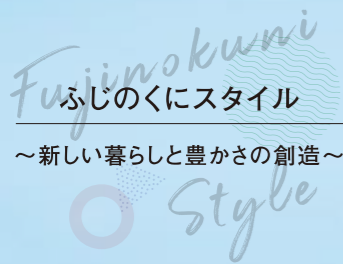


# 「バイ・山の洲(くに)」で 中央日本四県が連携！ ～「幸せを呼ぶ経済圏」形成へ共同宣言採択～



## 中央日本四県知事共同宣言

「バイ・山の洲(くに)」

本州の中央部にある新潟・長野・山梨・静岡の中央日本四県は、東日本と西日本、太平洋と日本海をつないでおり、古来、多くの人や物が交流することで、お互いの発展を支えてきました。

現在、四県は、新型コロナウイルス感染症の影響により、農業、水産業、小売業、飲食業、観光業など、多くの産業が厳しい状況に直面していますが、われらの四県は合計すれば、人口約900万人、GDP約38兆円と、オーストリアやノルウェーに匹敵する力をもっています。その潜在力を引き出すためには四県が互いに手を携えることが重要です。

現在、交通・情報インフラの整備が進み、四県が共有する山岳は世界に誇る美しいスーパーランドスケープリージョン(絶景空間)であり、山岳を守りながらも有効に生かす新しい交流はすでに始まっています。

そこで新たに、各県の産品の購入や域内の観光交流を促進する「バイ・山の洲(くに)」を展開しようと思います。「バイ・山の洲(くに)」は域内の生産者を助ける利他の行為であり、買う人に幸福をもたらす自利の行為でもあります。この取組によって、域内の人を幸せにしながら、自分も幸せになる、「幸せを呼ぶ経済圏」の形成につなげていきます。

\*バイはby(寄り添う)とbuy(買う)の両方の意味

新型コロナウイルス感染症の感染状況・感染防止対策に十分注意を払いながら、四県民は利他が自利になるように互いに協力し、全国に誇る「豊かな自然・美味しい食・温かな人情」に触れ、互いの産品を購入し、互いに訪れあい、新型コロナウイルス感染症の厳しい現状に打ち勝ちたいと思います。

◎中央日本四県の豊かで、美味しく、新鮮な県産品をお互いに購入しあいましょう。

◎海や山をはじめ、多彩な中央四県の観光地をお互いに訪れあいましょう。

令和3年11月8日

新潟県知事 花角 英世  
長野県知事 阿部 守一  
山梨県知事 長崎 幸太郎  
静岡県知事 川勝 平太



令和3年11月に山梨県の道の駅富士川で開催された「バイ・ふじのくに」つながる市」。4月に本県吉田町の吉田中の生徒が制作して山梨県に贈った缶バッジのお礼に、富士吉田市にある同じ校名の吉田中の生徒から手作りの木札と特産織物を使ったコースターが贈呈された。



令和2年5月28日、本県の川勝知事が新型コロナで窮地にあった山梨県の南アルプス市を訪問。長崎知事と会談し、「バイ・ふじのくに」運動がスタートした。

日本の中央を横断する新潟、長野、山梨、静岡の4県は、世界に誇る美しい日本アルプスを共有することから、「山の洲」として連携し、取り組みを進めている。この「山の洲」4県は、共助の精神と強固な連携を背景に、「バイ・シズオカ」運動から発展した「バイ・山の洲」に取り組むことで、域内の人を幸せにしながら、自分も幸せになる「幸せを呼ぶ経済圏」の形成を目指している。

買い支えたい思いが出発点

新型コロナウイルス感染症の世界の流行が始まって約2年。大打撃を受けた地方経済を再生させるためには、個人消費を中心とした内需拡大が鍵になるが、本県は早くから「買って繋がる、ふじのくに」を合言葉に「バイ・シズオカ」運動を展開してきた。これは、県民に県産品の購入や県内施設の利用を呼び掛け、苦境にある県内の生産者や事業者を支援しようというもの。具体的には、県内スーパーでの地産地消フェアやE.C.による県産品の販売などを行い、効果を上げている。

「バイ」には、寄り添う(BY)、買う(BUY)という2つの意味がある。つまり、運動の原動力は、各個人が持つ「利他と自利で支え合いたい」という共助の心だ。県はその運動を、山梨県との連携事業「バイ・ふじのくに」へ発展させた。起点となったのは、両県知事の心の交流だ。令和2年の5月末、山梨県のサクランボ農家の窮状を知った本県の川勝知事は、南アルプス市を訪れサクランボを購入。それに対して、6月半ばに山梨県の長崎知事が沼津市を返礼訪問し、県産水産物を購入した。両



令和3年11月8日に開催された第6回中央日本四県サミットでは、新潟、長野、山梨、静岡の4県知事により「バイ・山の洲」共同宣言が採択された。



左から、長野県の阿部守一知事、山梨県の長崎幸太郎知事、新潟県の花角英世知事、静岡県の川勝知事。



令和3年10月6日から令和4年1月5日の期間中、新潟、長野、山梨、静岡の4県にある「買ってほしい」「訪れてほしい」を動画や写真で募集する「山の洲ビジュアルアワード」を開催。

首長の先陣を切った交流は、2県の絆を深め、「ふじのくに」の連携運動へ発展した。

主な取り組みは、地域の百貨店や道の駅などでの物産展・農産品直売会の相互開催などだが、令和3年7月に静岡市の百貨店で行った農産品直売会では、山梨県特産品のモモやスモモが完売し大盛況を博した。これを受け、県は取り組みを長野県、新潟県を含む「山の洲」へと拡大。背景には、新潟、長野、山梨、静岡の4県が、世界に誇る美しい山岳を共有する地域として、平成26年か

### 新たな広域経済圏の形成へ

「バイ・山の洲」は、令和2年11月、台風被害に遭ったリンゴ農家を激励するため川勝知事と3県の副知事が長野県で会合したのが発端。地域経済再生の取り組みを4県連携に発展させ、新たな広域経済圏の形成を目指すことになった。

取り組みの柱は、「モノ」、「ヒト」、「物流」、「情報」の四つ。「モノ」に関する令和3年の実績は、物産交流及び

を対象とした支援制度の創設により、教育旅行を活用した交流を促進。「物流」は、令和3年8月末の中部横断自動車道静岡ー山梨間の全線開通を機に、域内物流の円滑化を図る。また、「情報」では新たな経済圏「山の洲」をPRする動画や写真を一般募集。年度内に審査し、受賞作品を各種媒体で広く発信する予定だ。

こうした中、令和3年11月8日、第6回中央日本四県サミットにおいて「バイ・山の洲」の共同宣言が採択された。これにより、4県の間にはより強固になり、取り組みも一段と促進されるだろう。コロナ禍の苦難を共に乗り越えれば、「山の洲」が目指す「幸せを呼ぶ経済圏」が形成される日は近い。



「バイ・山の洲」の一環で、令和3年10月に静岡伊勢丹で初開催された長野県産のリンゴとシャインマスカットの直売会。特産のリンゴ3種類を「りんご三兄弟食べ比べセット」として販売し、好評を得た。



令和3年12月、静岡伊勢丹で、「バイ・山の洲」の取り組みでは新潟県から初出店となる、西洋梨「ル・レクチエ」や新米3銘柄の食べ比べセットの特産品直売会を開催。